

年の瀬

2023. 12. 26

年の瀬である。令和5年、2023年も、あと数日で終わる。学校は、4月から3月までの年度で動いているため、12月だからといって、1年の終わり、区切りという気分にはなれない。だが、一個人、一社会人としては、12月は、大事な節目であることは間違いない。大晦日には、「今年は、～だった」と1年を振り返ってみる。そして、年が改まれば、初詣に出かけ、「今年は、～」と祈願する。

今年とはいうか、今年も、自分の中では動きが少なかった。出会いが少なかった。その出会いは、人、本、旅である。まず、人との出会いである。コロナ過の影響もあるが、以前よりも自分にとっての大きな出会いが減った。こうなるのは、こちらの問題である。こちらの心の持ち様である。表現を変えれば、思いがけない出会いのことである。人生が、うまくまわっているときは、出会いが出会いを生み、それらの出会いが自分の人生や生き方に影響を与えることがある。

次に、本である。明らかに本を読まなくなった。正確に言うと、読むことができない。興味や関心が薄らいできたのだろうか。読み始めても持続できない。この1年で、一気に読み終えた本が何冊あったらだろうか。自分で自分のことを寂しく思う。

最後は、旅である。旅に出なくなった。どうも内向きになってきた。これもよくない。旅に出ないとわからない、感じるができないことがある。旅に出ないことに慣れてきてしまっている。だが、心のどこかでは、旅に出たいと思っている。

こうして振り返ってみると、この1年は、超低空飛行のようなものだった。インプットもせずに、ひたすらアウトプットに追われた。この状態にも慣れてきた。慣れとは恐ろしいものである。低空飛行ではあるが、虎視眈々と一気に浮上することを狙ってはいる。この1年、いや3年間は、きれいに言えば、充電期間だった。その中身の中核をなしていたのは、考えるという行為である。必要なことは考えたが、要らないことまで考えたような気がする。

新年を迎えて、急に人生が変わるわけではない。しかし、自分の心持ちは変わるような気がする。人生の新たなステージがスタートする年である。一気に呵成にいきたい。守るのではなく、攻めるのである。

「高澤先生は、小学校をやって、中学校をやって、海外にも行って、行政を経験して、高校にも行って、どうですか」と聞かれたことがある。うまく答えられなかった。この年の瀬に、今一度、この質問と向き合いたいと思う。それから、新しい年を迎えるようにしたい。令和6年の干支はというと、辰である。来年は、辰年である。そういえば、私は、辰年生まれだった。